

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
	合計	20

事業所番号	1492900079
法人名	有限会社 ぱすてる
事業所名	どんぐり庵さんだ
訪問調査日	平成22年11月29日
評価確定日	平成22年12月27日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900079	事業の開始年月日	H21・3・1	
		指定年月日	H21・3・1	
法人名	有限会社 ばすてる			
事業所名	どんぐり庵さんだ			
所在地	(〒243-0211) 神奈川県 厚木市 三田742-27			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	H22・11・1	評価結果 市町村受理日	平成23年1月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設で暮らすことになってもその人らしい生活を送ることができるように、お一人おひとりに目を配り、個別性を持った対応を心がけている。
 近所の徒歩圏内にスーパーや衣料品店、レストランがあり、日々の買物や行事の際に必ず入居者様と一緒に外出するよう心がけ、積極的に活用している。
 日常における料理や洗濯、掃除等に関しては職員のみで決して行わず、利用者個人の力に応じた内容で一緒に行ない、たとえ少しの時間でも関わりをもち、また役割を持って生活して頂けるよう努めている。
 また、入居者様が健康に暮らせるように、かかりつけ医や看護師に協力してもらい、日々の健康面のチェックや、何か変化があった時は即座に対応できるよう日々の情報交換や、入居者様の観察に力を入れている。
 今年に入って、地域の自治体行事や、ミニデイ、防災訓練等に参加させてもらい、施設だけではなく、地域の一員として生活できるよう、少しずつだが関係性をもてるよう変化してきている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成22年11月29日	評価機関 評価決定日	平成22年12月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴
 ①このホームは、(有)ばすてるが飯山にある「どんぐり庵」の姉妹ホームとして平成21年3月発足した。飯山のどんぐり庵は認知症専門のデイサービス「みみおくらぶ」をその源としており、オーナーは看護師でケアマネジャーであり、医療、介護についての定評がある。隣接の荻野は古くから栄えた地域であり、ここ三田は新興住宅地であると言う。三田自治会に加入し、運営推進会議で地域行事への参加を促進して頂けるようお願いし、三田夏祭り、老人会のミニデイ、町内会の防災訓練などに参加することが出来た。夏祭りでは隣のいなげやの駐車場に来る夏の子ども御輿を見て楽しませて頂いたりしている。紅白の幕なども町内会から借りられるようにまで親しくなれた。又地域については、地元の大家さんのご協力を得ながら近隣とのつき合いを進め、行事等の企画を行っている。運営推進会議は自治会長、民生委員、地域代表(大家さん)、ご家族及び市の職員、地域包括支援センターのメンバーで実施し定着することが出来た。アクセスは小田急線本厚木駅から、バスで20分程度で、バスの運行本数も多い。車でのアクセスでは、東名・厚木インターから車で約20分の便利な所に位置している。
 ②所内の体制に関しては、設立時、飯山のどんぐり庵から移籍して来たスタッフを中心に、このホームで採用した職員を教育し、1年8ヶ月経過してようやくどんぐり庵さんらしい体制がほぼ備った。ケアの方針については、「みみおくらぶ」「どんぐり庵」と同様であるが、入居者の方が穏やかに人生最終章を過ごして頂けることを目指している。入居者の方々の望みを叶えてあげたい気持ちを持ち、その為には普段の関りを大切とし、形にとらわれずに真摯な態度でご利用者に向き合う、“当たり前”の対応を心がけている。日常活動の様々な場面では、職員主導を排く、ご利用者の意思を確認する形の関わりを大切に、ケアに努めている。厚木市は福祉に熱心であり、職員の採用について福祉専門に合同就職相談会(厚木市介護保険事業所説明会主催)を実施し、福祉人材確保の援助をしてきていて助かっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	どんぐり庵さんだ
ユニット名	ぐり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し実践につなげる努力をしている。理解に乏しい職員がいるため、ミーティング等で確認するようにしている。	ここでの暮らしがその人らしいものとなるように、理念を掲げている。理念を理解し実践につなげる努力をしている。理解に乏しい、新しい職員も多いため、ミーティング等で確認するようにしている。対応の話をして行く中で理念に立ち戻って考えるようにしている。ケアの方針は本人の出来ることをやれるようにサポートすること、本人にとって心地よい環境への気配りを重視して行っている。地域については、来てくれた人に応じた対応が出来ることを大切にしている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、夏の子供御輿や、夏祭り、ミニデイに参加させて頂いた。また、回覧板を通じ、情報の共有を図らせて頂いている。	自治会へ加入し、夏の子供御輿に参加させて頂いた。（見に行った。）お神輿には飲み物、お酒、ご祝儀、お賽銭（利用者が出す）などの提供もしている。また、回覧板を通じ、情報の共有を図っている。ボランティアには行事を中心に入ってもらっている。地域の子どもが遊びに来てくれたり、地域の落語の会などにも参加している。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方々や、見学に来られた地域の方々にはその都度説明を行なっている。まだ機会は少ないが、地域のミニデイで認知症の方々の生活や支援について話す機会を頂いた。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間3回開催の予定で行なっている。防災、地域行事に関することや、施設内の居心地の良い環境作り等の助言を頂き、日々のサービス向上に活かしている。	運営推進会議は年間3回開催の予定で行なっている。メンバーには自治会長、地域代表（大家さん）、民生委員、厚木市の方、地域包括支援センターの方それぞれにご家族とホーム関係者である。防災、地域行事に関することや、施設内の居心地の良い環境作り等の助言を頂き、日々のサービス向上に活かしている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営状況や入居状況など様々な相談をさせて頂いている。また、施設内での事故により受診をした際には報告書を提出し、助言を仰いでいる。	市町村とは、開設時より、運営状況や入居状況など様々な相談を行う等、協力関係をとっている。厚木市には合同就職説明会を開催して頂き、採用できた職員もある。また、施設内での事故により受診をした際には報告書を提出し、助言を仰いでいる。研修については、受講費を自己負担した9割を返却する制度を3年間受けられることになっている。（今年は3年目である。）	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束となる具体的な行為の殆どを正しく理解できている。しかし、それを踏まえたケアをできている職員とそうでない職員がいる。	身体的・精神的拘束についてをミーティング等で理解を深めるよう取り組んでいる。全ての職員が身体拘束となる具体的な行為の殆どを正しく理解できている。施錠については、できる限り施錠せずに過ごせるよう、職員間での声かけや見守りを行うよう努めている。鍵をかけざるを得ない事情も徐々に改善し、近隣の理解を得て、鍵をかけなくても良い状況に近づいており、努力をしている最中である。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持っていない。虐待であろう行為をすることがないように努めている職員、無意識になってしまっている職員がいる。個人的な問題になっており、事業所全体としては防止に努めていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業に関しては、日常の問題についての管理者とのコミュニケーションで学ぶ機会があるが、具体的に学ぶ機会は少ない。成年後見人制度について学ぶ機会を設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての契約項目に関して、時間をかけ丁寧に説明を行ない、不安や疑問点をその都度確認しており、納得の上で契約の締結や解約を行なうよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話連絡を通して意見や要望を聞く機会を設けている。それに関して、申し送りや毎月のミーティングで確認をして、日々のケアに活かしている。	様子シートや、面会時の声かけ、電話連絡を通して意見を頂く環境、機会を設けている。それに関して、申し送りや毎月のミーティングで確認をして、日々のケアに活かしている。1日の様子（個人日報のダイジェスト）を1行で書いたものを、1ヶ月分に総評をつけて毎月、ご家族にお渡ししている。初めての入居者が多く、ご家族の相談がある。相談には職員が対応している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員それぞれの意見や提案を取り入れ、日々の業務の見直しや工夫を行なうことの重要性を説明し、話を聴く機会を設けるよう努めている。	職員それぞれの意見や提案を取り入れ、日々の業務の見直しや工夫を行なうことの重要性を説明し、話を聴く機会を設けるよう努めている。入職後、ある程度の期間の後に業務に関する意見等を聴く時間を設けている。介護の現場や申し送り場で簡単な問題提起をして職員の考え方を聞くよう習慣付けている。1ヶ月、3ヶ月、1年の区切りで面接をする他、フロアにおいて業務の中で意見を聞くよう意識して取り組んでいる。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価表等で職員個々を把握し、年に1回は給与見直しの機会を設けている。パートからの正職員登用も行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの力に応じた外部研修への参加をすすめている。内部研修も、その時々に必要なテーマを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホームに限らず、他サービスの方と接触できる場を提供できるよう心がけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人に面接を行ない、困っていることや不安等について尋ねている。できる限りリラックスした状態でお話ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて伺っている。その際、ご本人の前で話しにくい内容等は別室にてお話をしたり、後日電話にて連絡をとるなど、できる限り不安な点や要望が聞けるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接を通じて、必要としている支援を見極め、当施設としてできることや、ご家族様にご協力していただきたいことに関して説明を行ない、本人にとっての良いサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様には、家事作業に参加していただくなど、職員が一方的にケアを提供することがないように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には、ご家族も参加できるよう配慮し、協力が得られるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的に支援していないが、馴染みの場所には車等で立ち寄っていくこともある。	家族との関係は大切にしている。行き慣れた美容室にお連れする等、支援に努めている。畑が心配と言っている人と畑を見に行ったこともある。具体的には、良く行っていたファミリーレストランへ行ってみたり、友人、教え子など来てもらったり等である。思い出の場所が思い出せない人については、近くに行って、知っているような態度を示した所はメモしておいてお連れするようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握できている。仲の良い利用者様同士の関係が保たれるよう空間の工夫をしたり、お手伝いを一緒に行なっていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居、病院への入院等で退去されても、ご本人の様子を伺いに行ったり、ご家族には協力できることがあれば連絡いただくようお願いしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	把握に努めている。それに対する思案や実行に移せないこともあるが、好みと思われることや、興味のあることは把握できているので、本人本位に行なっていると感じる。	日常生活を観察し、普段の会話等を通じて本人の意向の把握に努めている。好みと思われることや、興味のあることは把握できている。困難な場合、主にミーティングを通じて職員間で検討に努めている。職員主導ではなく、本人の意思を確認する形での関わりを持つようになっている。口頭で伝えるのが困難な方は、表情や行動を察して判断するようになっている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴等を知るよう伝達している。今後は他の機会でも知ることができるよう工夫したい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おおよその生活リズムは把握できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	できる限り、本人・家族からも意見を聞くように努めている。新たな課題が発生したときには職員と話し合うこともある。	ミーティングを通して現在課題となっていることは話し合い、よりよいケアの方法がないかを検討している。介護計画にも反映できるように努めている。問題を抽出して考えることを基本にしている。できる限り、本人・家族からも意見を聞くように努めている。新たな課題が発生したときには職員と話し合い、単に報告に終らせず考える機会を持つようにしている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記入については職員間でばらつきがある。特に重要な点については、毎日の申し送りや、会議で情報を共有できているが、緊急性のないものについては、必ずしも情報が行き渡っているとは言い難い。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の趣味や、嗜好に応じて外出やレクリエーションの機会を設けるようにしている。またその際は家族に相談し、その意見や希望を取り入れるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある店（スーパー、衣料品店等）は日頃から入居者と共に外出し利用している。運動公園や食事処を外出の場とさせていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に家族からの希望がないときは、協力医療機関へ受診するが、希望がある場合は、家族が希望する病院に受診。必要に応じて家族と共に職員が付き合うようにしている。	基本的には協力医療機関を利用しているが、希望があればこれまでのかかりつけ医を受診できるように支援している。現状は全員同じ往診医に受診し、一般内科以外の専門科の主治医にかかっている方は数名いる。必要に応じて家族と共に職員が付き合うようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には24時間連絡を取れる体制になっており、入居者の体調に気になる点があれば連絡をして指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、職員が度々病院を訪問し、病状について主治医から話を聞くように努めている。また、施設側からも入居者の普段の生活状況等を情報提供するように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が体調を崩した時、その都度家族には状況を詳しく説明しているが、ターミナルを視野に入れた話し合いはまだなく、この点に関して家族と十分な意思の疎通が取れているとはいえないと思われる。	入居者が体調を崩した時、その都度家族には状況を詳しく説明しているが、まだ、具体的にターミナルを視野に入れた話し合いの状況は運良く発生しておらず、この点に関して家族話し合った実績は無い。どんぐり庵同様、看取りは希望があれば行う体制にある。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	人工呼吸、心臓マッサージの講習は全員が受けているが、それ以外の対処法については、いまだ知識・技術共に未熟である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施しており、また地域の防災訓練に職員が参加している。	災害時における避難・消火・通報方法については、マニュアルや実践を通して理解している。地域との協力体制は現在、十分に検討は出来ていないが、近隣の防災訓練に職員が参加している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前での介助・声かけはその人のペースで明るく穏やかに努めているが、職員によってはトイレ誘導時の声かけが大きい。	これまで培ってこられた環境等（仕事や家族背景等）に配慮し、一人ひとりに合わせた言葉かけや会話を心掛けて接している。人前での介助・声かけはその人のペースで明るく穏やかに努めているが、職員によってはトイレ誘導時の声かけが大きいケースもあり注意している。同性での入浴介助を希望される場合には、そのように対応している。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望された方にはできている。希望することができない方には表情や動作等でキャッチし、支援を努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何っても希望がなかったり、表現できない方への支援に努力が必要。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な身だしなみやおしゃれ、声かけや気配りはしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から積極的に調理や片付けに参加され、力の発揮はできている。	独自の、飯山と同じメニューで、必ず利用者と一緒に買い物に行き提供している。食事の準備等は一人ひとりの力に合わせて一緒に行っているが、関わる方が限定されることもあるので、今後は他の方も参加できるように配慮していく姿勢でいる。火を扱う際は、見守りをしている。利用者から積極的に調理や片付けに参加され、力の発揮はできている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量共に比較的確保できているが、その人の健康状態によっては、摂取量が減ってしまう日もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの介助が必要ない方への清潔保持確認、声かけが足りない。介助が必要な方へのケアはできている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を促し、オムツ使用を減らすようにしているが、職員員数や状況によってできない場合がある。	昼間、夜間を問わず、排泄表をもとに声をかけ、案内している。トイレでは本人が自立出来るように見守りや声かけによる支援を行っている。オムツにたよるばかりではなく、何かサインがあるかを探るようにしている。出来ればオムツを外したいと考えてケアを行っている。時間だけでなく水分量も見るようにしている。職員ですぐオムツにしようと言う人は教育の成果でいなくなった。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や寒天、バナナ、食物繊維を多く含む食品を提供しているが、更なる努力が必要と思われる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望がある場合は、利用者のタイミングで入浴を行なっている。希望が表現できない方や入浴を拒否される方への支援、努力が必要。	入浴の順番は概ね決めているが、希望がある場合は、利用者のタイミングで入浴を行なっている。希望が表現できない方や入浴を拒否される方への支援、努力が必要と考えている。夜7時～8時の入浴も自立の方には入ってもらっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃から自由に過ごしていただいているので、居室でゆっくりしたいときや、体調のよくないときなどは、そのときに応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を確認し症状の変化があればNsへ報告し、常に服薬している薬以外のものも申し送りなどで確認し、飲み忘れのないようにチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯、調理、掃除等一人ひとりの得意分野を活かし、買物に同行していただき、嗜好品を知ったり、ドライブに行き気分転換をしていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を家族に伝えたり、地域交流に参加している。	天候の良い日は散歩や外気欲が出来るように努めている。たまに外食やドライブに行くこともある。ゴミ捨てや散歩、買い物などの日常的な外出支援を行っている。自宅周辺や、馴染のある店に行きたい希望がある時はその都度支援を行っている。公園、海、山、牧場などに行っている。ご本人の希望を家族に伝えたり、地域交流に参加したりしている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入したいものがあれば同行して、買物していただけるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って外部との連絡が取れるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に清潔に保ち、安全を第一に入居者の方が心地よく過ごせるように、ソファや畳スペースを設けている。	快適に過ごして頂ける様、音楽や室温・湿度に配慮し、畳スペースを設け、リラックスできる空間を作っている。行事の時には飾りつけし、季節を感じて頂く事と、メリハリをつけるよう意識している。（七夕、正月等）全体的に清潔に保ち、安全を第一に入居者の方が心地よく過ごせるように、ソファや畳スペースを設けている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士が談笑されたり、テーブルで新聞や広告を見たり、個人個人が思い思いに過ごせるようなスペース作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っているもの、馴染みのものを持ち込んでもらっているが、入居者によってはシンプルすぎて病室のような居室もある。そのような部屋でもご本人の居心地が良い居室になるようにしていく。	以前から使っているもの、馴染みのものを持ち込んでもらっているが、入居者によってはシンプルすぎる居室もあるが、そのような部屋でもご本人の居心地が良い居室になるようご家族を含め一緒に検討している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることはできなくならないように支援し、できないことは職員がサポートをしている。		

事業所名	どんぐり庵さんだ
ユニット名	ぐら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	弊社の理念に基づき、その人らしさを大事にし、安心を居心地の良さを追求している。毎日職員同士で集まり、ミーティングを実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を入居者様と一緒に届けたり、自治会主催の夏祭りに参加して交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方々や、見学に来られた地域の方々にはその都度説明を行なっている。まだ機会は少ないが、地域のミニデイで認知症の方々の生活や支援について話す機会を頂いた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間3回開催の予定で行なっている。防災、地域行事に関することや、施設内の居心地の良い環境作り等の助言を頂き、日々のサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営状況や入居状況など様々な相談をさせて頂いている。また、施設内での事故により受診をした際には報告書を提出し、助言を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物玄関の施錠については実行しているが、家族へ説明を行ない承諾していただいている。身体拘束についてはミーティングなどを行ない周知するよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月職員を集め、管理者同席のもとミーティングを行ない周知するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業に関しては、日常の問題についての管理者とのコミュニケーションで学ぶ機会があるが、具体的に学ぶ機会は少ない。成年後見人制度について学ぶ機会を設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての契約項目に関して、時間をかけ丁寧に説明を行ない、不安や疑問点をその都度確認しており、納得の上で契約の締結や解約を行なうよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話連絡を通して意見や要望を聞く機会を設けている。それに関して、申し送りや毎月のミーティングで確認をして、日々のケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員それぞれの意見や提案を取り入れ、日々の業務の見直しや工夫を行なうことの重要性を説明し、話を聴く機会を設けるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価表等で職員個々を把握し、年に1回は給与見直しの機会を設けている。パートからの正職員登用も行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの力に応じた外部研修への参加をすすめている。内部研修も、その時々に必要なテーマを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホームに限らず、他サービスの方と接触できる場を提供できるよう心がけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人に面接を行ない、困っていることや不安等について尋ねている。できる限りリラックスした状態でお話ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて伺っている。その際、ご本人の前で話しにくい内容等は別室にてお話をしたり、後日電話にて連絡をとるなど、できる限り不安な点や要望が聞けるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接を通じて、必要としている支援を見極め、当施設としてできることや、ご家族様にご協力していただきたいことに関して説明を行ない、本人にとっての良いサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事は入居者様と一緒にいきます。その他、役割が特定の入居者様に偏らないよう、役割分担を決め、職員が間に入り支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、本人の様子が分かるようご様子シートをご家族に送っている。些細なことでも家族に相談し本人と家族との関係がいつまでも続くよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人の慣れ親しんだ地域へのドライブや、入居前に利用していたお店へ行ったりしている。また、本人の希望があれば、知人に電話や、手紙を出せる環境を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	主にレクリエーションやお手伝いを通して、利用者同士のコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点でできていることは、入院や、他ホームに転居してしまった入居者の状況を把握している。お見舞いや、他ホーム長との関係を保っている点もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしきとは、人それぞれ違うので、日頃からコミュニケーションを図り、その人の好み、希望に合わせるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーを参考にし、入居前にどこに住んでいたのか、職業、生活環境の把握に努めている。また、そこからコミュニケーションを図ることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ファイルや、日常記録を参考にし、持病や、過去の病歴、服用している薬を職員全員に周知できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	できる限り、本人・家族からも意見を聞くように努めている。新たな課題が発生したときには職員と話し合うこともある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人記録を書いており、日々の様子を情報交換している。重要なことは業務日誌に記入し、更にミーティングや申し送りを通して情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、ご家族の希望にて訪問マッサージをする方向で検討中。病院での検査結果、Drの指示書待ちである。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーや公園を利用している。また、自治会でのお祭り等にも参加し、地域の方との関わりを通して、楽しい時間を過ごしていただけるよう援助している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医の往診を実施。受診する際には事前にご家族の了承をとり、受診後に報告している。現在、別のかかりつけ医を受診している方がいるが、ご家族が対応しており、職員は間に入っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な変化でもすぐにNsに報告し、相談できる環境にあり、その都度適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、各スタッフが面会に行く等し、現状の把握に努めている。退院時はサマリーを参考にし、食事や排泄等介護活動を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在対象者がいないため実行されていないが、今後必ず必要になってくるので、日々の何気ない会話等からご本人様やご家族の意向を聞いていけたら良いと思う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングにて心臓マッサージの講義を受けた。また、救急車の要請法は電話近くにはってある。だが、定期的な訓練は行なえていないため、その場で冷静な判断ができるかどうかは不安が残る。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行ない、入居者様がどのくらいの時間で避難できるのか把握することができた。地域との協力体制についてはまだまだ課題が多い。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、着替え、入浴介助時、他から見えないようにドアを開ける。タオルをかける。その人に合った言葉かけ、人生の先輩者として自覚し、失礼のない言葉で接していくように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気軽に利用者様の希望を話していただけるように言葉かけをしている。居室にいたい時などはそちらにお茶等も運んだり、外に出たい気分の際はお連れする。飲み物等は選んでいただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望を最優先に考え、体力に応じた無理のない範囲で外出や散歩ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛や服装は清潔で女性らしい身だしなみを心がけ、食事等で口や手が汚れてしまったら声をかけ拭いていただく。ボタン付け、ゴムの入れ替えなど、気付いた時に即対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が好まないメニューの日は職員で話し合い変更している。咀嚼や嚥下に問題のある方には、おじやにしたり調理バサミできざんだりしている。食事の準備、片付けはできる範囲でやってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決まった時間にお茶をお出しする以外にも、外出や入浴後等、水分確保に心がけている。内容もジュースや牛乳、コーヒー、アイス、ゼリーなどバラエティーを工夫しながら摂取していただく。トロミをつける必要のある方にはつけてお出しする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きの声かけ、案内をしている。自力で出来ない入居者様にはお手伝いしている。義歯ははずして磨いていただくよう声かけをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	歩けそうな入居者様には手引きをしてなるべくご自分でトイレに行っていただく。尿意・便意が分からない入居者様にはこちらから声かけ、お連れする。オムツ・リハパンの使用を減らせるように夜間・外出時以外はパットのみ使用。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量の少ない入居者様には体を動かしていただくよう、その方に応じた対応をしている。牛乳やヨーグルトを摂取していただいたり、排泄時にしばらく便座に座ってもらい、マッサージやウォシュレットで刺激する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は一応決まっているが、希望があれば入ってもらっている。散歩や外出に出られた場合は、戻られてから入浴したり、ずらしている。個々の希望に応じた入浴支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度管理やシーツ交換をして、安眠できる環境作りに取り組んでいる。また、日中の生活の様子情報を共有して、疲れが見られたときなどは休んでいただくといった対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬表を添付し、いつでも確認ができるようにしている。また、薬の変更等があるときは、職員間で情報を共有するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節を感じられる食材を取り入れたり、気に入った音楽を流す、家事全般を一緒に行ない、役割を持った生活を送ってもらえるよう支援しているが、ワンパターンになっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温、体調を考慮してドライブに行っている。また、希望のお菓子などを散歩しながら買いに行ったり、馴染みのあるお店に出かけたりすることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理ができ、買物の希望があるときは、お連れしてご自分で使えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば電話や手紙でのやり取りをしていただくように支援したい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所などの火の扱いや、刃物などを放置しない。また、不快なく過ごせるように温度や湿度管理を行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士がお話ができるように隣の席に座っていただく。反対に1人で集中して新聞を読まれたり、周囲が騒がしくて落ち着けない状況がある時などは、フロアで場所を作ったり居室で過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を設置したり、一緒に掃除を行ない、清潔な状態を保てるように努力している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアに表札をつけたり、居室内のタンスの引き出しに衣類の種別ごとのシールを貼って目で分かるように工夫し、自己管理を促している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

どんぐり庵さんだ

作成日

平成22年12月29日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	52	<p>①玄関やフロアに季節感がない。また、飾りがなく寂しい印象を受ける。外部の方からも同様の指摘を受けた。</p> <p>②トイレや入居者様の居室に目印になるものがなく、場所を探すのに困惑されている。</p> <p>③フロアの和室スペースは現在畳がそのまま敷いてある状態であり、もっと入居者様が利用しやすいものに改良する必要がある。</p>	<p>①共用空間に季節感や生活感を持たせる。</p> <p>②トイレや居室に入居者様が認識しやすい目印等をつける。</p> <p>③入居者様が利用しやすい和室スペースを設ける。</p>	<p>①・季節の花を飾る ・入居者様の作品を飾る。(塗り絵、切り絵、貼り絵、ペーパークラフト等) ・食事のメニューを掲示する。 ・各季節行事の飾り付けを増やしたり入居者様と一緒にを行う。</p> <p>②・トイレに認識しやすい物を飾る(花のリース等) ・居室に入居者様の作品を飾ったり、表札と一緒に作成し飾る。 入居者様各々が認識しやすいものを検討する。</p> <p>③・床から30cmくらい底上げして、つまずきを防ぎまた立ち上がり易くなるように工夫する。</p>	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。